

# 県外派遣審判員報告書

作成日 H29年 5月 13日

大会名	南九州四県対抗バスケットボール選手権大会	会場	大分県総合体育館
期間	H29.4.28(金)～4. 30(日)	報告者	隈元 ゆみこ
スケジュール			
期日	内容		場所
4月29日(土)	8:15～	審判会議	大分県総合体育館審判控え室
	17:00～	女子予選リーグ担当 小林(宮崎) 対 熊本国府(熊本)	大分県総合体育館
4月30日(日)	10:30～	女子1位リーグ担当 延岡学園(宮崎) 対 中津北(大分)	大分県総合体育館

## レクチャー・審判会議の内容

### <審判会議内容>

- ・前日に行われた代表者会議における伝達事項について  
 コーチ、プレイヤー、チーム全員の協力について  
 4方面(プレイヤー・指導者・観衆・審判)からの協力について

・レフェリー後の反省会について、該当者だけでなくできるだけみんなで参加し、研鑽し合える場に。

実技	割り当て	女子予選リーグ 小林 対 熊本国府	(主)副	相手	佐伯 宏美(大分)
----	------	-------------------	------	----	-----------

### ○ゲーム前(プレカンファレンス)

悪い手・腕・肘の整理をゲームの早い段階でしっかり基準を示すこと。インサイドに対する守り方やポジション争い、足元などの確認をしっかりとすること。2人の協力の仕方(エリア3からエリア4で起こるプレイに関しての受け渡しやリードが右サイドに渡れていなかった際のトレールの協力についてなど)について話をした。

### ○ゲームの実際

1Pで悪い手の使い方について基準を示すことができ、選手・コーチがその基準の中で対応し、プレイをしてくれたように思う。しかし、ゲームの後半、ほぼ勝敗が決まりかけていた場面で、控えメンバーがでてきてゲームの流れをかえたあとに再度スタートメンバーが戻った際の手の使い方や体の寄せ方については、再度しっかりと整理する必要があった。前半で対応してくれていても、ゲーム終盤では同じように対応してくれるとは限らないので、1ゲームを通して、基準を示し続けることの重要性を感じた。

### ○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 徳丸 昂 氏(熊本県) B級

ゲーム序盤でしっかりと基準を示すことができていたが、序盤から相手レフェリーが対応しきれいいなかったものについて、4Pで積極的に判定しにいুকよりも、2Pや3Pのうちから示しにいったほうがよかったのではないかと。

実技	割り当て	女子1位リーグ 延岡学園 対 中津北	(主)副	相手	前半:林田 誠(大分)、後半:石本 修朗(宮崎)
----	------	--------------------	------	----	--------------------------

### ○ゲーム前(プレカンファレンス)

セネガル人に対する小さい選手の守り方、また、身重差があるためセネガル人の腕や肘の使い方について、悪い手の使い方については、ゲーム序盤でしっかりと判定をしていこうということ。2人で協力しなければならない場面での対応の仕方、ベンチの管理、セカンドメンバーがでてきた際にあらためて基準を示すということについて話をした。

### ○ゲームの実際

お互いに悪い手の使い方について、早い段階で判定をすることができた。その中で、途中、パートナーの負傷により、前半はパートナーの動きの部分もカバーしなければならない場面がでてきたために、多少マニュアルとは違った対応になった部分はあったが、視野の分担やポジションなど2人で話しをして対応することができたのでよかった。後半に入り、パートナーが変わったため、そこへの対応という部分で難しい面はあったが、お互いに話しをしながら対応していったように思う。力の差があったゲームであったために、ゲーム終盤の判定については、個人的には反省の残るゲームとなってしまった。

### ○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 村田 南美子 氏(宮崎県) B級

パートナーが前半と後半で変わったということはあったが、2人で協力してゲームを進めることができていた。力の差等に関係なく、悪い手の使い方等、一貫して判定しつづけてもよかったのではないかと。

プレゼンテーションについて、ベンチをさして示すレポートに多少違和感があった。何か意識してのことであったのか？

## 全体を通しての感想

今回「プレイコーリングガイドライン」にあげられているオフェンス、ディフェンスの悪い手・腕・肘の使い方というところを意識してゲームにのぞみました。その中で、ディフェンスに関しては、自分なりに早い段階で判定を下すことができるもの、オフェンスに関しては、もっとプレイの理解や追求、そして判定する決断力が必要であると感じました。参加している上級がA級3名のみでしたので、私たちが判定するものについては、他のレフェリーもチームも選手もいろんな意味で注目していたのではないかと思います。そういった中で、しっかりと基準が示せたかどうか。今の自分の判定はしっかり出しきりましたが、もっとプレイの理解を深め、追求していかなければならないと感じましたし、県内においても、A級として県内レフェリーの手本となれるように、自己研鑽に努めるとともに、指導する立場としても、その在り方について勉強していく必要性を感じました。

最後に大変お世話になった大分県審判委員会の皆様、今回の派遣に御配慮いただきました神丸審判長、原田審判委員長代理をはじめ鹿児島県審判委員会の皆様に御礼を申し上げます。ありがとうございました。